

生涯学習概論

(解答はすべて解答用紙に記入し、この問題用紙に記入しないこと)

1. 青少年の学校以外での学習機会について、その全体像を何らかの整理をして示すとともに、それらの特徴について800字以内で述べなさい。(30点)
2. 地域におけるまちづくりを、教育委員会(教育行政)と首長部局(一般行政)が連携を図りながら支援することには、どのような利点があるか、400字以内で述べなさい。(15点)
3. 次の事項の中から2つを選び、それぞれ200字以内で説明しなさい。その際、各事項のキーワード2つを必ず用いて説明しなさい。(各10点)
 - ① 社会教育主事(キーワード:教育委員会、社会教育を行う者)
 - ② 「PTA」(キーワード:社会教育関係団体、学校)
 - ③ “*Learning to be*”(邦訳『未来の学習』)(キーワード:完全なる人間、フォール)
4. 次の各文章の①～⑦の()に最も適する語句を下の選択肢より選びなさい。なお、同じ数字には同じ語句が入ります。(各5点)
 - (1) 1965年、ラングランは(①)成人教育推進国際委員会において(②)の概念を提唱した。(②)とは、生涯にわたって時系列的に行われる教育を統合(「 ③ 」)するとともに、家庭教育・学校教育・社会教育などに分けられて行われている教育を統合(「 ④ 」)しようとする考え方である。学校教育を中心とした従来の教育概念を根本から大きく転換させようとするものとして、全世界に大きなインパクトを与えた。

(2) 生涯学習とは一生涯にわたる学習のことであり、それに応じた実践理論が必要とされている。しかし、「教育学」をあらわす英語の語源がギリシャ語の「子ども」＋「指導者」であるように、教育と言えば子どもを対象とするものと限定的に捉えられる傾向がある。しかし、子ども対象の教育実践と大人対象の教育実践とは異なる点も多い。そこで、従来の子どもを主たる対象とする教育学では不十分であった成人のための教育学として、ギリシャ語の「成人」＋「指導者」から (⑤) という言葉が造られた。

(3) (⑥) 年、OECD（経済協力開発機構）は労働現場で必要とされる知識や技術の革新への対応として (⑦) を提唱した。学校を終えて一旦就労すれば再び学校に戻ることは従来あまり見られなかったが、生涯にわたって教育を受ける期間と労働をする期間を交互に繰り返すことで、知識・技術の変化に対応しキャリア・アップをはかることが目指された。

- ① ア. UNDP イ. UNICEF ウ. UNESCO
- ② ア. 生涯学習 イ. 生涯教育 ウ. 成人教育
- ③ ア. 垂直的統合 イ. 水平的統合 ウ. 空間的統合
- ④ ア. 垂直的統合 イ. 水平的統合 ウ. 時間的統合
- ⑤ ア. アンドラゴジー イ. ジェロゴジー ウ. ペダゴジー
- ⑥ ア. 1973 イ. 1990 ウ. 2006
- ⑦ ア. リカレント教育 イ. リサイクル教育 ウ. リテラシー教育